

サハリン地質調査体験記

・サハリンの衣食住

ロシア共和国は西はモスクワ、東はサハリンまでシベリア大陸の大半の土地を所有しています。サハリンは極東手当が出るためモスクワの給料より高く、モスクワから若い時にサハリンにやって来て、金を儲けてモスクワに帰る人が多いようです。すでにモスクワに自宅を持っている人も多く、モスクワに来た時には寄ってくれとよく別れの挨拶に言われますが、私にとってはモスクワははるか彼方のヨーロッパです。その人達はサハリンでは郊外の4階建てアパートに住んでいます。アパートの外見はきれいとは言えず、また階段も電気がほとんどついていないので夜の上り下りは困ります。しかし、防備のため厚くしている二重ドアを開けて室内に入ると、きれいに整頓され、快適な生活空間が現れます。台所も全て電気を利用し、暖房もステイムです。そのためか火事は少ないようで、サハリンで火事を目撃したことはありません。

エネルギーの中心である電気は郊外にある火力発電所で作られています。物資が乏しい時代(1993年前後)には電気が欠乏し、車のライト以外町中真っ暗になっているのには驚かされました。しかし、停電の恩恵を受けることもあります。税関でのチェックで荷物にレントゲンをかけられますが、コルサコフから出国する際に停電となり、新聞に挟んだ植物標本を大量に持ち出そうとした同伴者の荷物がチェックなしに出国できた時はサハリンの電気事情に感謝しました。

サハリンでの最大の問題は税関です。特に資料収集を目的とする場合、どのようにすると「安全」に持ち出せるかで頭を悩まします。一緒に調査した研究仲間が先に帰国することになりましたが飛行場でチェックを受け、岩石資料を没収されてしまいました。後発の私はそれからロシア人の共同研究者と共にサハリンの役所を駆けめぐり、書類作りの為だけに数日を費やし、やっとの事で回収に成功しました。国立科学博物館ではサハリンのアンモナイトの研究を10年ほど前から行っていますが、研究資料数トンが5年以上に渡りサハリンに止まったままになっています。私の研究している変成岩は「ただの岩石」で手続きも簡単のようですが、アンモナイトのような有名な化石は市場価値が高く手続きも難しいようです。

サハリンではほとんどの車が日本車です。以前は日本で使えなくなった廃車寸前の車でしたが、最近ではオイルマネーが動き始めたためか経済事情が良くなり新車が多くなりました。サハリンは右側通行なので右ハンドルの日本車は追い越しの際に大きく左に出なければならず、しばしば正面衝突をおこします。しかし、日本では死者が出たに違いない大破した車の中からロシア人が傷一つなく涼しい顔をして出てくるのを見ると、別の人種だと強く感じてしまいます。日本車で人気があるのはT車や、N車でH車は避けられています。H車は車高が低い未舗装地が圧倒的に多いサハリンでは道路状況に適していませんし、エンジン制御にコンピュータを多く使っているため修繕しにくいからです。サハリンでは高級車はランドクルーザのような大型ジープです。クラウンタイプでないのはやはり道路事情によるのでしょうか。ここ数年オイルマネーが流れ始め、ガソリンスタンドも看板を出し日本同様ユニホーム姿の女性が油を入れてくれるようになり、それまでのみずばらしいセルフシステムからの変化に驚かされました。日本ではセルフシステムに向かいつつ



サハリンのホームパーティー

ありますが、逆行しているのは興味ある現象でしょう。

旅行の楽しみの一つに食事があります。種類が少ないロシア料理のうち一番有名なのはボルシチです。赤株にクリームを入れたスープは色もきれいで、油が少なく胃に優しい料理です。ロシア料理は寒い地域でカロリーを多く取るために油を多く使います。そのため年を取るとドラム缶のような体型になるのかもしれませんが。主食は酸味のする黒パンですが、パン自体としては日本人が食べている白色の甘いパンの方がおいしいのです。しかし、油の多いロシア料理では黒パンのさっぱりした酸味が中和剤になり、食事のバランスを微妙にとっています。最近は韓国料理の影響か、ご飯や豆腐が食卓に上がる機会が多くなり、日本人には身近な食事環境になりつつあります。ハイカロリーが好きなのでしょうか、炊き立ての温かいご飯の上に甘ったるいコンデンスミルクをかけて食べるのには閉口しました。当然、彼らが食べる前に自分の分を確保しました。

お土産も旅の楽しみの一つです。原材料しかないサハリンでの人気商品は、葡萄の香りいっぱいのコニャック、ブルーベリーのジャム、それにチョコレートです。コニャックのコルク栓が甘く、ザックの中で横になって漏れ、ザックがコニャックの臭いでいっぱいになったことがありました。それ以来、ビニールテープを栓に巻き漏れを防いでいます。ブルーベリーは東サハリン山地には沢山生えており、口にほおばりながらの調査は楽しい思い出です。駅の売り子さんもブルーベリーを売っています。チョコレートは純度100%の素朴な味で、お土産の定番です。これらに共通なのは、添加物を使っていないということです。野菜作りにしても化学肥料を使っていないためか小型の野菜しか収穫できません。添加物や化学肥料を使う技術がないのがロシアの現状のようです。彼らは日本人より理想的な健康な生活を送っているのかもしれませんが。(つづく)
(合地信生)

発行 斜里町立知床博物館協定会 2005.6.30
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>